

令和 6 年度 駒沢中学校学校関係者評価委員会 報告書

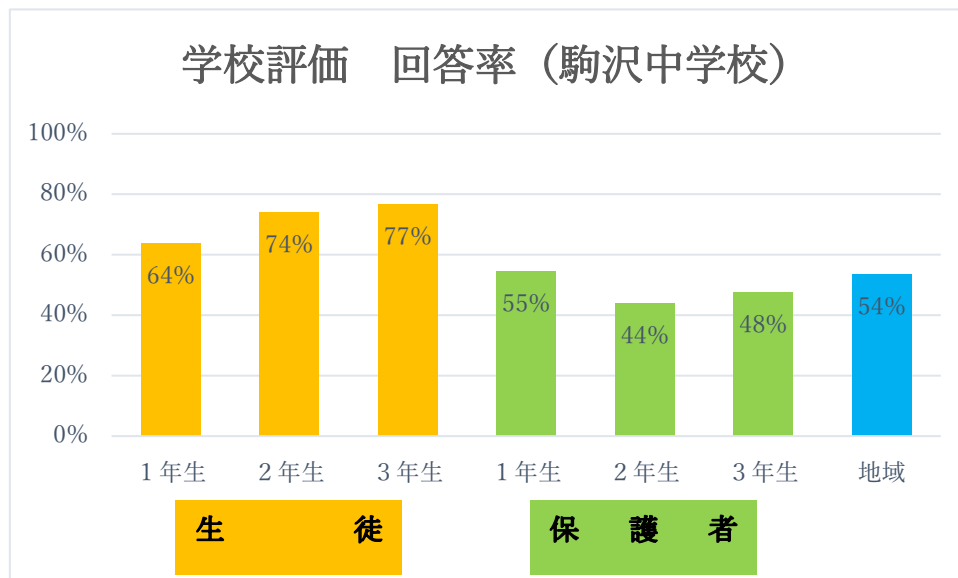
今年度も引き続き、生徒・保護者・地域住民に向けての学校関係者評価アンケートが実施されました。

駒沢中学校は、校訓として「向学 誠実 調和」を掲げ、教育目標「自ら学び考え行動する人間性豊かな生徒の育成」の実現のために、「安全・安心・安定した学校」の構築を目指して学校運営に邁進していることに対し敬意を表した上で、令和 6 年度駒沢中学校学校関係者評価の結果及び提言を次の通り報告いたします。

【令和 6 年度学校関係者評価】

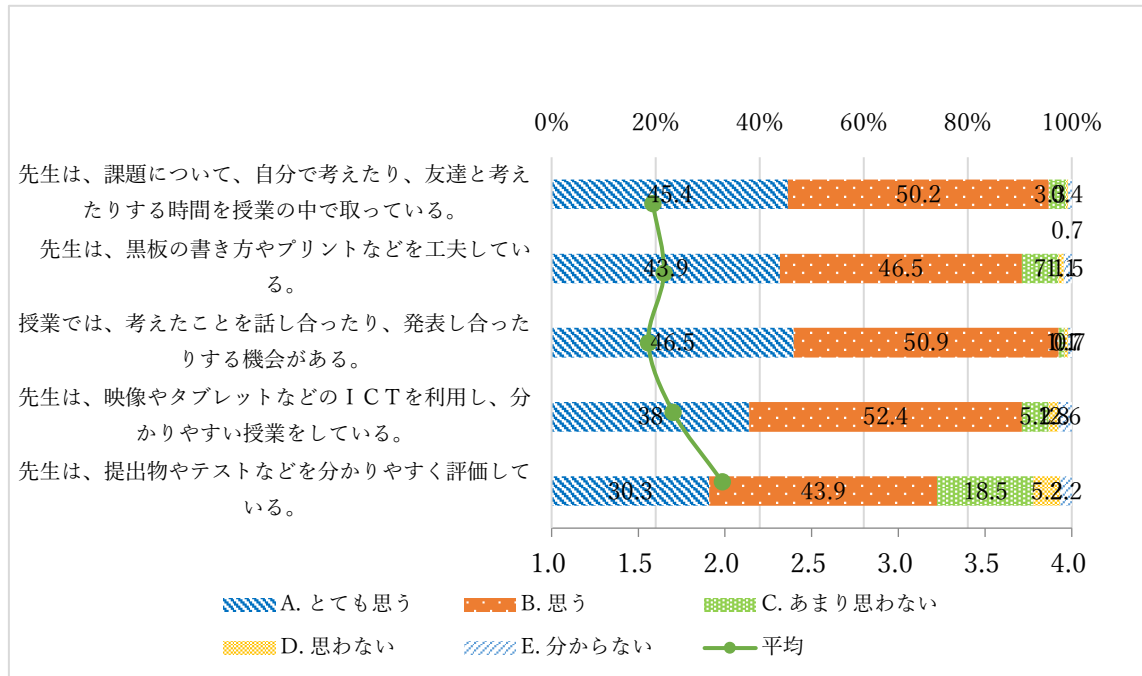
◎ アンケート実施期間：令和 6 年 11 月 13 日～11 月 27 日

◎ 回答率

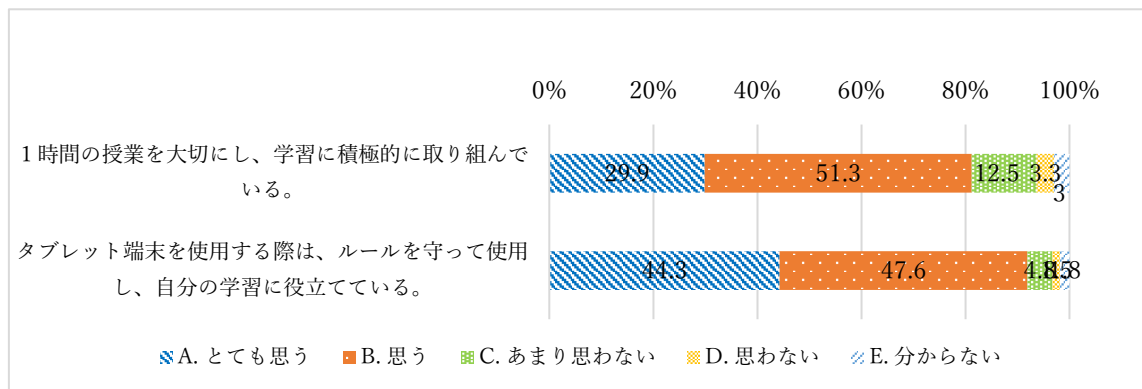


1 学習指導について

(1) 生徒による評価について



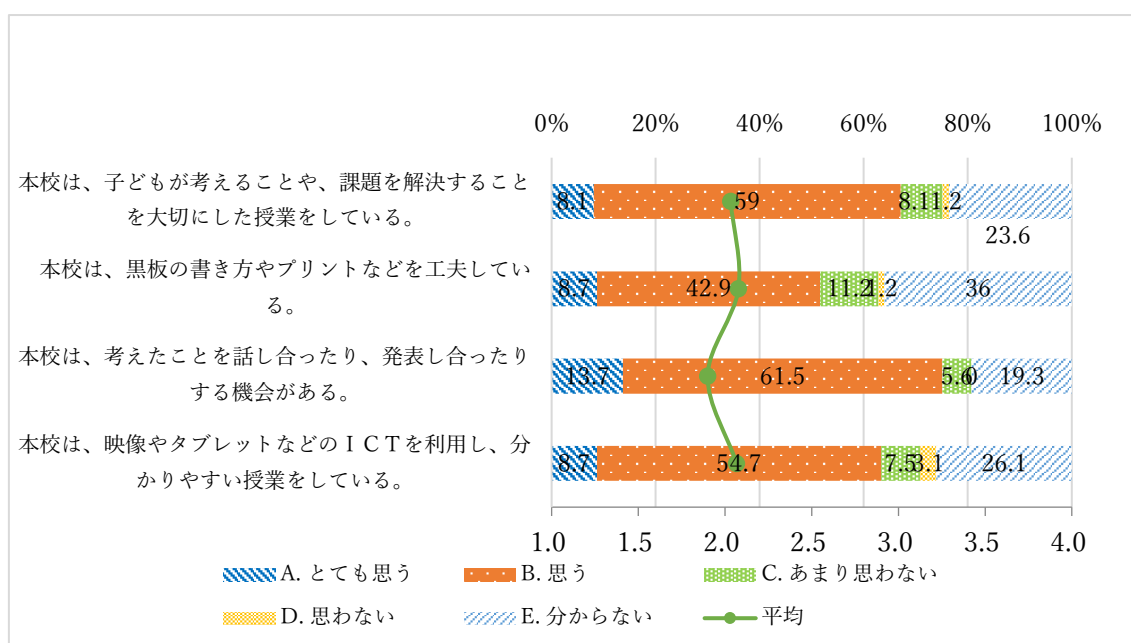
「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」という項目の肯定的評価（とても思う、思う）95.6%（昨年度93.2%、以下括弧内は全て昨年度数値）、「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の肯定的評価90.4%（89.6%）、「授業では考えたことを話し合ったり、発表したりする機会がある」の肯定的評価97.4%（95.2%）、「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価90.4%（88.8%）、「先生は提出物やテストなどをわかりやすく評価している」の肯定的評価74.2%（76.9%）という結果となっており、引き続き高い肯定的評価を維持している。一方、それに比して先生による学習評価に関する肯定的評価は比較的低いことが少々気になるところである。



生徒アンケート「1時間の授業を大切にし、学習に積極的に取り組んでいる」の肯定的評価 81.2% (78.9%)、「タブレット端末を適切に使用して、自分の学習に役立てている」肯定的評価 91.9% (94.0%) で、これまでと同様に本校の学習指導の基本方針である「主体的・対話的な学びを推進し、思考力・判断力・表現力・課題解決能力を向上させる」に沿った学習指導及び学習活動が継続されているものとする。

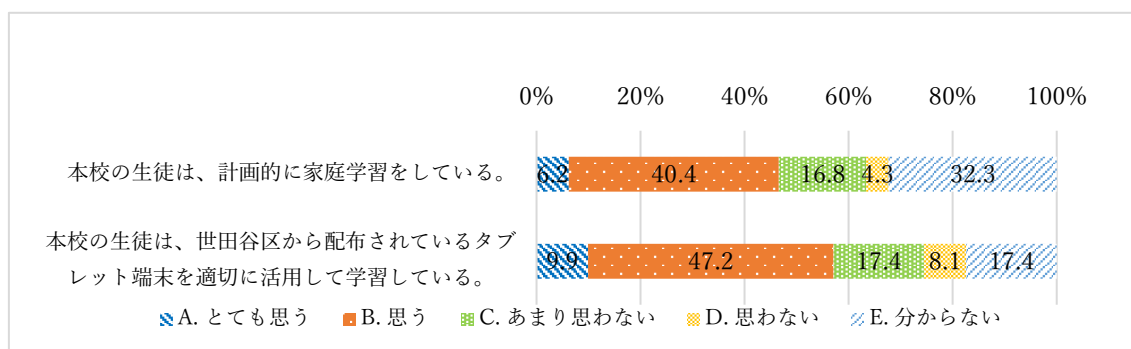
同じく生徒アンケートで「私は、家庭で宿題や e-ラーニングなどで学習をしている」の肯定的評価 61.2% (59.1%)、「私は、塾で学習をしている」65.3% (71.7%) という結果が出ている。これをどのように評価するかは、3年生の塾学習（進学塾と思われる）81.5%の数値とともに、家庭学習と塾学習の関連性を含めて改めて分析する必要性を感じる。

（２） 保護者による評価について



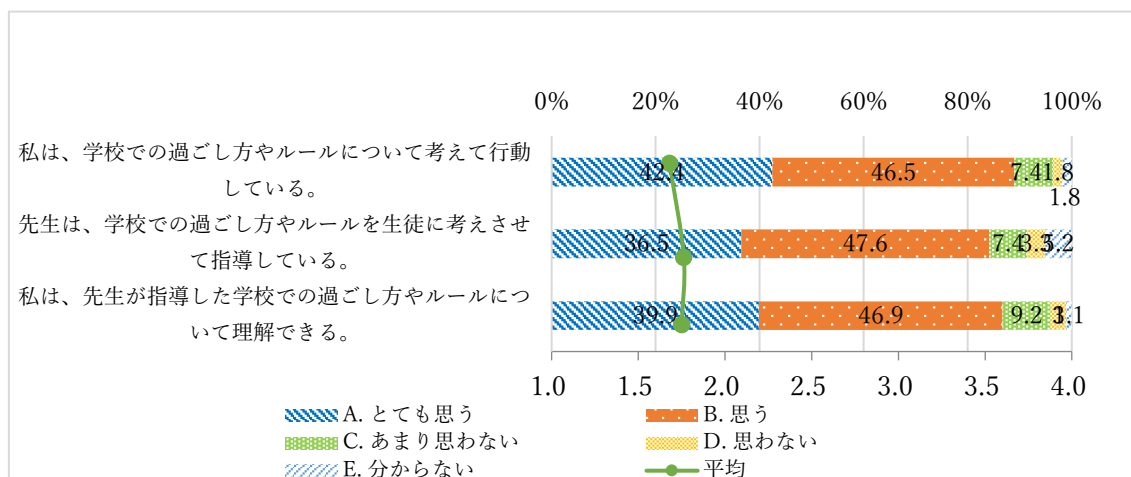
「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にしている」という項目の肯定的評価 67.1% (74.3%)、「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の肯定的評価 51.6% (59.1%)、「本校は、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価 75.2% (76.6%)、「本校は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価 63.4% (61.9%) となっており、肯定的評価の数値に微減の傾向がみられる一方で否定的評価（あまり思わない、思わない）の数値に比して、不明（わからない）の回答が多いことから、学校の情報開示及

び保護者の関心の一層の深化を期待する。



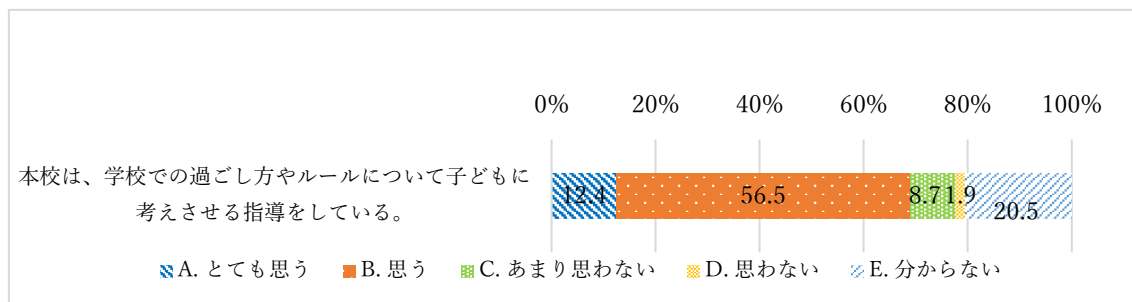
本校の独自項目のひとつである「本校の生徒は、計画的に家庭学習をしている」の保護者による評価について、肯定的評価 46.6% (44.5%)、「本校生徒は、世田谷区から配布されているタブレット端末を適切に活用して学習している」の肯定的評価 57.1% (58.7%) との数値から、引き続き生徒の家庭学習への学校の指導の一層の充実はもとより、保護者が学校の学習指導及び生徒の家庭学習に対して常に深い関心を持つことが望まれる。

2 生活指導について

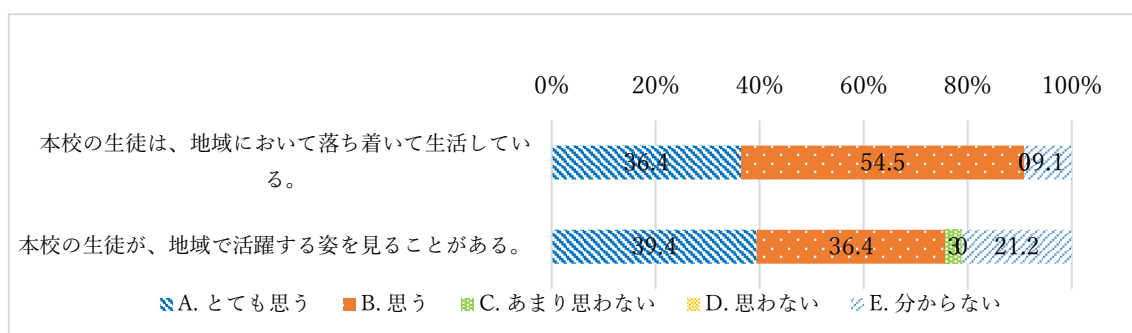


生徒アンケート「私は、学校の過ごし方やルールについて考えて行動している」は肯定的評価 88.9% (88.0%) と昨年度同様に高評価であった。「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」は肯定的評価 84.1% (85.7%) であるが、2年生の肯定的評価 71.8% (85.7%) で 13.9 ポイント下がった。一方で1年生 92.0% (84.3%)、3年生 85.9% (86.8%) と高い評価となった。「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」は肯定的評価 86.8% (84.1%) で、この項目でも 2年生の肯定的評価 75.7% (83.7%) で 8.0 ポイント下がった。1年生 91.1% (82.3%)、3年生 91.3%

(85.8%)と評価が高い。このことから、1年生は、中学校生活の不安や緊張感、3年生は、高校受験に対する不安や緊張感から先生とのよりよい信頼関係ができているように思われる。2年生のこれら2項目の肯定的評価が下がったことは、学校生活に慣れたため不安や緊張感が軽減されたことによるものと思われる。先生は、これまで以上の信頼関係を築き、生活指導を行うように努めていただきたい。



保護者アンケート「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」は肯定的評価 66.1% (58.3%) で 7.8 ポイント上がった。しかし、2年生 59.5% (81.8%) は 22.3 ポイント下がり、「わからない」が 25.3%である。そのため、保護者は学校行事・公開授業等で学校での先生・生徒の様子を知るために積極的に来校することを期待したい。この項目の2年生保護者の肯定的評価が下がり、「わからない」の回答に対して昨年度からの改善があまりみられない。このことから、先生は、保護者とのよりよい信頼関係を築き、更なる改善に努めていただきたい。

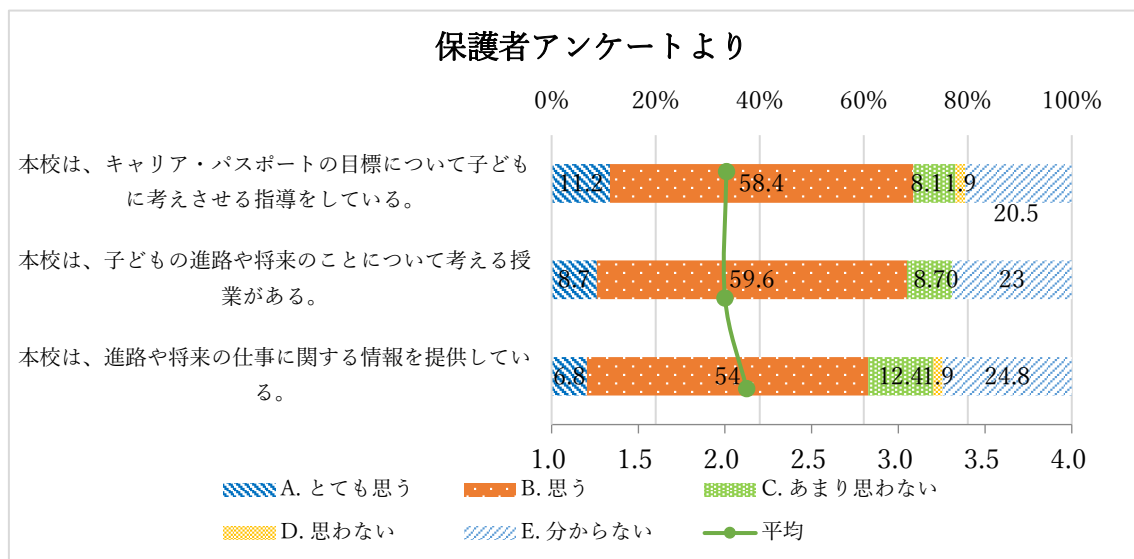
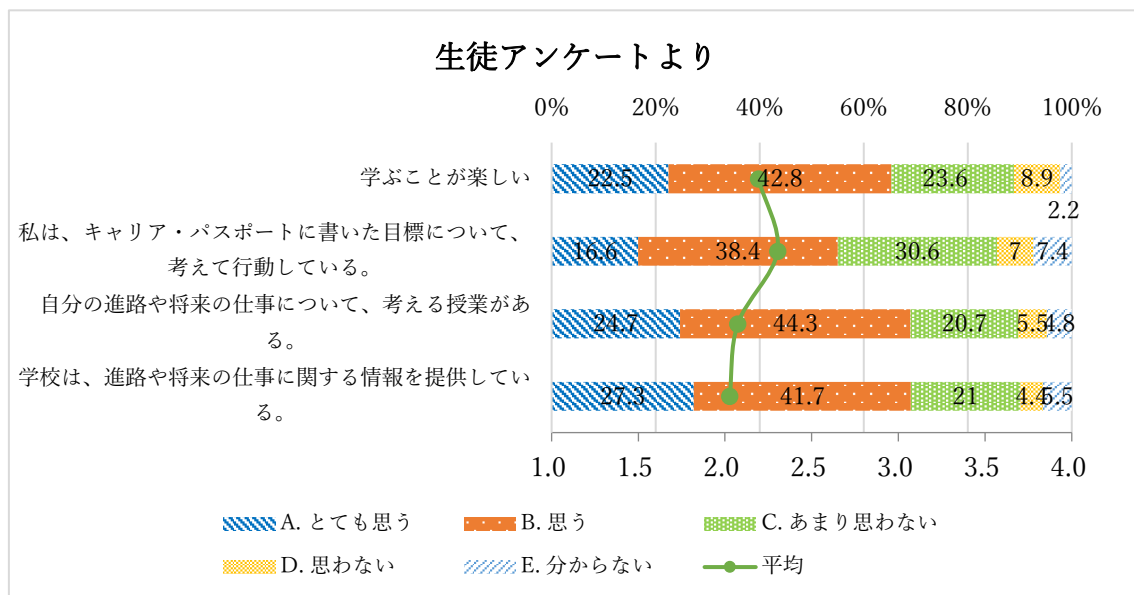


地域アンケートは、独自項目「本校の生徒は、地域において落ち着いて生活している」は肯定的評価 90.9% (95.7%) と低減しているものの、昨年度同様に地域で落ち着いて生活していると思われる。独自項目「本校の生徒が、地域で活躍する姿を見ることがある」は肯定的評価 75.8% (82.6%) で 6.8 ポイント下がり、「わからない」が 21.2%である。しかし、地域では、イベント等の中学生の参加協力で助けられているという声を聞くことが多い。中学生は、地域において災害時等は大きな力となると思われる。そのためにも地域のイベント等に積

極的な参加協力を継続していただきたい。

学校は、昨年度に引き続き、学校での様子等の情報を地域に発信して、よりよい信頼関係の継続に努めていただきたい。

3 キャリア教育について



生徒アンケート「学ぶことが楽しい」は、1年生 66.3%、2年生 52.6%、3年生 75.0%と全体的に半数以上の肯定的評価が得られた。

生徒アンケート「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について考えて行動している」では、2年生の肯定的評価 39.7% (58.1%) と昨年度より大幅に低くなった。対して、1年生の肯定的評価 59.4% (53.2%)、3年生 63.0% (60.5%)

と昨年度より増加した。2年生の否定的評価 52.5%(34.7%)と、「わからない」が 7.7%(7.1%)を合わせると、半数以上の生徒が自分で書いた目標について具体的に考えて行動できていない状態と思われる。

保護者アンケート「本校はキャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている」に対する肯定的評価は、1年生保護者 64.4%(43.3%)、2年生保護者 68.1%(80.5%)、3年生保護者 76.3%(75.7%)となっており、1年生保護者の肯定的評価が大幅に増加し、2年生保護者の肯定的評価が減少した。これらの分析から、今後も引き続き、学校からの継続的な指導を望むと共に、より保護者の理解が深まると良いと思われる。なお、今回のアンケートには間に合わなかったが、今年度は年度末に、1年生に対し職業講話の授業が実施されるため、生徒、保護者ともにキャリア教育について意識し、考える良い機会になると期待できる。

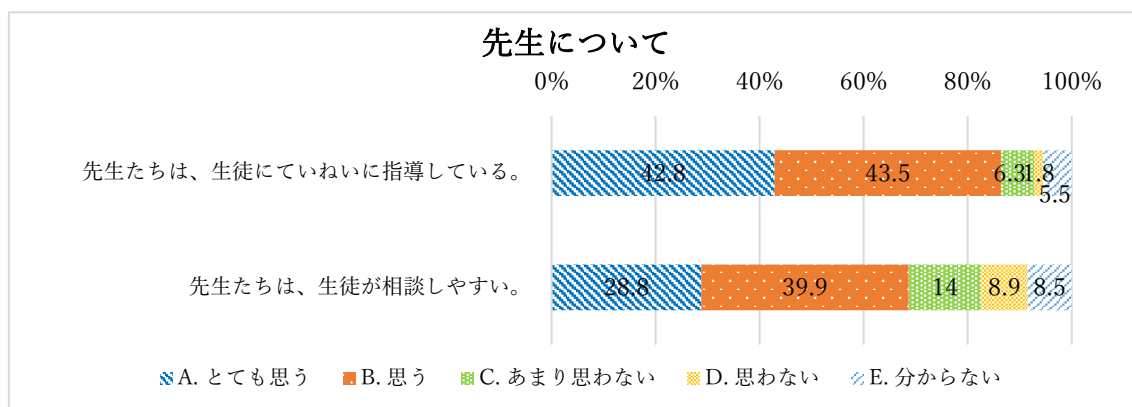
続いて、生徒アンケート「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」について、2年生の肯定的評価が 61.5%(76.5%)と低くなった。一方で1年生の肯定的評価は 60.4%(42.0%)と大幅に高くなった。

また、保護者アンケート「本校は子どもの進路や将来の仕事について、考える授業がある」は3年生保護者の肯定的評価が 85.5%(81.1%)と高い数値を維持した一方で、2年生保護者の肯定的評価は 59.5%(70.1%)と低くなり、1年生保護者の「わからない」が 32.2%(35.8%)と昨年同様高い傾向が見られた。この結果から、1年生の時点からキャリア教育を意識し、周知できるような働きかけを強化していくことが必要だと思われる。

生徒アンケート「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」では、1年生の肯定的評価が、65.3%(45.2%)と高くなった。2年生の肯定的評価は 53.8%(73.4%)、3年生の肯定的評価が 85.9%(90.1%)と低くなり、学年によって評価の違いが見られた。これは、学年にあった形での情報提供や、生徒が望む、より良い支援が行われることが必要であると思われる。

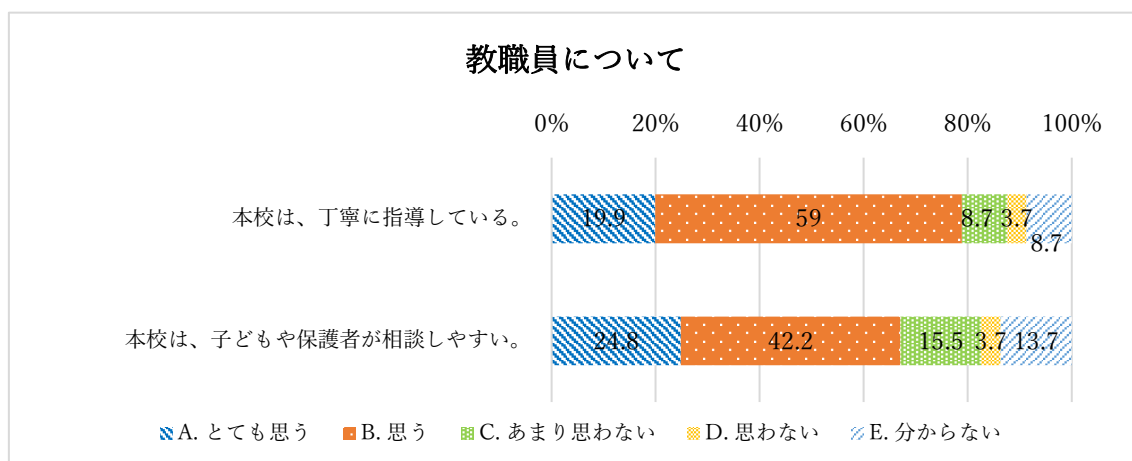
そして、保護者アンケート「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」では、肯定的評価が1年生保護者 47.5%(34.3%)、2年生保護者 59.6%(71.4%)、3年生保護者 76.4%(79.7%)と、1年生保護者は上がったものの、2年生保護者、3年生保護者は低下した。これは年々多様化していく進路選択に応じて、時代に沿った細やかな情報提供が求められていると思われる。

4 教職員について



生徒アンケート「先生たちは、生徒にいていねいに指導している」は、肯定的評価が 86.3% (94.0%) と 7.7 ポイント減少、否定的評価は 8.1% (4.0%) と 4.1 ポイント増加、「わからない」が 5.5% (2.0%) と 3.5 ポイント増加している。学年別にみると、3年生の肯定的評価は 94.5% (94.5%)、否定的評価が 4.5% (4.4%)、「わからない」が 1.1% (1.1%) と横ばいではあるが、肯定的評価は 1年生 85.2% (93.6%) と 8.4 ポイント、2年生 78.2% (93.9%) と 15.7 ポイント減少している。

「先生たちは、生徒が相談しやすい」は肯定的評価 68.7% (64.9%) と 3.8 ポイント増加した。否定的評価は 22.9% (26.3%) と 3.4 ポイント減少、「わからない」が 8.5% (8.8%) と 0.3 ポイント減少している。学年別では、肯定的評価は 1年生が 66.3% (58.1%) と 8.2 ポイント、3年生が 84.8% (64.9%) と 19.9 ポイント増加しているが、2年生は 52.6% (64.9%) と 12.3 ポイント減少した。



保護者アンケート「本校は、丁寧に指導している」の肯定的評価は 78.9% (82.1%) と 3.2 ポイント減少、否定的評価が 12.4% (8.2%) と 4.2 ポイント増加、「わからない」は 8.7% (9.6%) と 0.9 ポイント減少した。

「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」の肯定的評価は 67.0% (78.0%)

と 11.0 ポイント減少、否定的評価が 19.2% (13.3%) と 5.9 ポイント増加、「わからない」は 13.7% (8.7%) と 5.0 ポイント増加している。

生徒アンケート「先生たちは、生徒に丁寧に指導している」、保護者アンケート「本校は、丁寧に指導している」は、どちらも肯定的評価が減少している。生徒の先生に対する感想が保護者の評価に反映されたと見受けられるので、先生たちの指導に関しては、工夫が必要と考えられる。

一方、生徒アンケート「先生たちは、生徒が相談しやすい」、保護者アンケート「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」は、肯定的評価は増加しているので、先生との関係は比較的良好といえる。

5 総合評価

まずアンケートの回収率を見ると、生徒においては 2 年生が 74% (昨年度 95%) と昨年度に比べ 20 ポイント以上低下しており、保護者に関しては 1 年生 55% (67%)、2 年生 44% (73%)、3 年生 48% (63%) と全体的に低くなっている。これらについては学校評価の結果に大きく関わる要因になるため、背景の分析と対策をとることが必要と思われる。一方で地域からの回答が 54% (34%) と大きく増加していることは喜ばしいことである。

今年度の生徒アンケート項目は、「学習指導」5 項目、「生活指導」3 項目、「学校行事」3 項目、「キャリア教育」4 項目、「先生について」2 項目、「全般について」6 項目、「部活動」2 項目、「駒中独自項目」10 項目、計 35 項目の質問構成で行われた。

「学習指導」に関しては、生徒による授業に対する評価は多くの質問で昨年を上回る非常に高いレベルの肯定的評価となった。これは他の項目でも同様に、授業に関する質問に対しては全体的に肯定的評価が目立つ。ひとえに各教員の授業に対する研究と工夫の成果であると大いに評価したい。

一方で課題や家庭学習においては肯定的評価が低くなる傾向にある。学校外での教育については最終的には生徒自身の主体性に委ねられるものであり、中学校としてどこまでできるか考えると難しいことかもしれないが、ぜひ改善への取り組みを検討いただきたい。このことは保護者からの学習に対する評価が全体的に低めであることにも関係しているかもしれない。つまり家庭で学習している様子がなかなか見られないことから、保護者から見て「学習指導」に関して否定的評価や「分からない」という回答をする結果につながっている可能性である。

なお保護者アンケートについては、「学習指導」4 項目、「生活指導」2 項目、「学校行事」3 項目、「キャリア教育」3 項目、「教職員」2 項目、「全般」6 項

目、「部活動」2項目、「情報提供」4項目、「学校運営」3項目、「家庭と学校との連携」3項目、「地域との連携」3項目、「学校の安全」3項目、「駒中独自項目」9項目、計47項目の質問構成である

気になるのは、保護者への授業に関する質問で「分からない」の回答が多いことであるが、後の質問で「私は、学校公開にすすんで参加している」への肯定的意見が特に2・3年生保護者で4割程度という昨年よりもさらに低い結果になっている。学校公開への保護者の参観が少なくなった結果、こうした評価になったと思われる。

この傾向は次の「生活指導」にも表れており、特に本文内で指摘した通り1・2年生の保護者の「わからない」との回答割合が多い。また「本校は地域に情報を提供している」という質問に対し、1年生保護者の肯定的意見は半数に満たないが、当事者である地域住民からの回答では「学校からの情報提供」の4項目の結果は肯定的意見平均が74.2%であった。こうした現状認識の差と、先ほど述べた保護者による「わからない」という回答の増加は、保護者が学校の状況について適切に認識できにくくなっているという現状を反映しているのではないかと考えられる。

他にはキャリア教育や教職員への評価は高めであり、本校の教育内容が良好であることを表している。改めて保護者・地域との連携を深め、人間性豊かな生徒の育成に大きな役割を果たしていただきたいと願う。

6 さらなる改善の努力課題

1. 生徒・保護者ともに調査回答率の改善に向けた取り組み。
2. 家庭学習・課題に対して、生徒自身が自主的・積極的に取り組めるような対策。
3. 学校公開などを用いて保護者が普段の授業の様子を知る機会がさらに持てるようにする。